

～ パネルと紙芝居、昔の写真を通してよみがえる ～

阿賀野川の忘れられた光と影



かつて、帆かけ舟が多数往来し、鮭やマス、川魚が豊富に獲れ、子ども達が楽しげに遊び、人々の生活の場そのものだった阿賀野川。しかし、明治以降、上流に様々な企業が進出し、日本の近代化を華々しく支えた裏で、新潟水俣病などの公害が阿賀野川に暗い影を落としていった。やがて、日本全体が豊かになり、かつての光景も姿を消してしまった現在、私たちは光と影の記憶を思い出すことすら少なくなった。

光と影の記憶を、流域の未来へどうつなげていくか。

日時 平成23年 1月22日(土)
15時20分～16時40分(開場:15時～)

会場 御神楽温泉 **みかぐら荘** 本館 大広間「御神楽」
(住所:阿賀町広谷乙2088、TEL 0254-95-2121)

- 内容 ○ 紙芝居「阿賀野川物語」上演(制作者「こっこ」)
昭和電工(株)鹿瀬工場社宅
○ 写真映像「ハーモニカ長屋から眺めた風景
～写真で綴る鹿瀬・昭和電工・阿賀野川～」上映
○ パネル展示「鹿瀬・昭和電工・阿賀野川」案内員による解説



参加無料 予約不要!



パネル巡回展 鹿瀬・昭和電工・阿賀野川

～光と影が織りなしてきた歴史～



赤湯 1/20 まで開催…その後、
みかぐら荘 1/22～2/7 開催!

観覧時間 10:00～20:00、観覧無料
ただし、1/25 は施設の休館日です。

■紙芝居制作者「こっこ」紹介

阿賀町の若い女性3人組(浅川奈保子さん・板屋越由希さん・山口菜依さん)からなるグループ。様々な史料や現地を調べた上で、親しみやすい絵とわかりやすい文を心がけて紙芝居を制作する。前作「草倉銅山物語」は地元・阿賀町を始め各方面で好評を博した。グループ名の由来は“漬け物”を意味する阿賀町の方言。

■阿賀野川え～とこだプロジェクトとは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称 FM 事業)。
阿賀野川流域の各地域がかつて発生した新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクト。

